

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 4 区分
【発行日】令和 5 年 4 月 11 日(2023.4.11)

【公開番号】特開 2022-80105(P2022-80105A)
【公開日】令和 4 年 5 月 27 日(2022.5.27)
【年通号数】公開公報(特許)2022-094
【出願番号】特願 2020-191093(P2020-191093)
【国際特許分類】

H 0 2 H 7/00(2006.01)

10

H 0 2 H 5/04(2006.01)

【F I】

H 0 2 H 7/00 F

H 0 2 H 5/04 1 4 0

【手続補正書】

【提出日】令和 5 年 3 月 31 日(2023.3.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 1

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 1】

制御部 8 4 は、温度差回路 2 4 の出力電圧が第 2 の電圧閾値を超えていると判定した場合(S 5 : N O)、負荷 1 2 の動作を停止させるか否かを判定する(ステップ S 6)。ステップ S 6 では、制御部 8 4 は、例えば、マイコン 3 0 の通信部が負荷 1 2 の動作の停止を指示する停止信号を受信した場合、負荷 1 2 の動作を停止させると判定する。制御部 8 4 は、マイコン 3 0 の通信部が停止信号を受信していない場合、負荷 1 2 の動作を停止させないと判定する。制御部 8 4 は、負荷 1 2 の動作を停止させないと判定した場合(S 6 : N O)、ステップ S 3 を再び実行する。温度差回路 2 4 の出力電圧が電圧閾値以上の電圧となるか、温度差回路 2 4 の出力電圧が第 2 の電圧閾値以下の電圧となるか、又は、負荷 1 2 の動作を停止させるタイミングが到来するまで、メインスイッチ 2 0 はオンに維持される。

30

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 5】

(実施形態 3)

40

実施形態 3 において、マイコン 3 0 は、実施形態 2 と同様に、温度差回路 2 4 の出力電圧が第 2 の電圧閾値未満であるか否かを判定してもよい。

以下では、実施形態 3 について、実施形態 1 と異なる点を説明する。後述する構成を除く他の構成については、実施形態 1 と共通している。このため、実施形態 1 と共通する構成部には実施形態 1 と同一の参照符号を付し、その構成部の説明を省略する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3

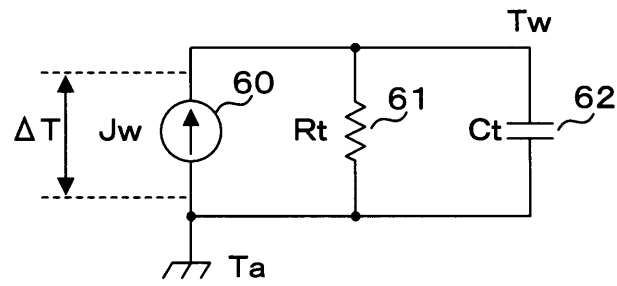
【補正方法】変更

【補正の内容】

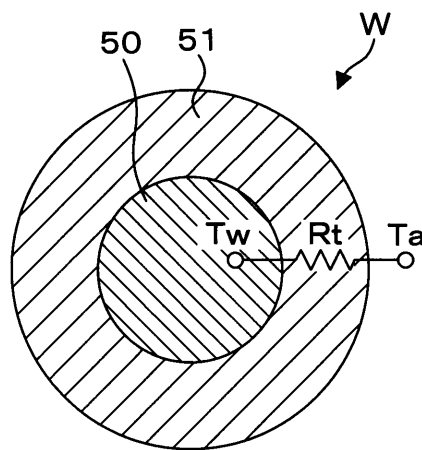
50

【図 3】

電線の熱回路



10



20

30

40

50